

佳作
(中学部門)

行田市立西中学校 (埼玉県)

2年

みつはし
三橋 芽生

独り立ちするって訳でもないのに、寂しくなって泣きそうになっちゃったんだ。

母

私が独り立ちをするその時まで、母は何度この言葉を心の中で呟くのだろうか。中学生になり、夜遅くまで勉強するようになった。私は、いつでも眠れるように寝室から自室にベッドを運んでもらうことにした。寝室で眠る最後の日、いつもは壁を向いて眠っていた私が幼い頃のように母の手を取った。それは母と手を繋いで眠れるのも最後だという覚悟に近い考えからだ。手を繋ぐ母は涙を堪えていたとも知らずに。翌日に思わずこの言葉を私に伝えた母を置いて、私はこのまま一人で大人の階段を上って行ってよいのだろうか。そう考えるだけで私の目からは涙が零れ出す。その涙を堪えられるようになった時、母は再びこの言葉を心の中で呟くのかもしれない。